

# 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

S E A R O A D 2 0 1 3

巻頭言	P.1
平成24年度総会	P.2~3
平成24年度担当者会	P.4
環境事業委員会活動	
リフレッシュ瀬戸内	P.5~6
海の健康診断調査	P.7
データの有効活用	P.8
魅力検討委員会活動	P.9~11
情報発信委員会活動	P.12
防災委員会活動	P.13
先導的活動支援報告	P.14
瀬戸内海クルーズ推進活動支援報告	P.15
後援活動報告	P.16
第6回瀬戸内海首長サミット	P.17~18

Vol.25



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

## 会員構成

### 大阪ブロック

大阪府 高石市  
大阪市 泉南市  
堺市 阪南市  
岸和田市 忠岡町  
泉大津市 田尻町  
貝塚市 岬町  
泉佐野市

### 徳島ブロック

徳島県 小松島市  
徳島市 阿南市  
鳴門市 松茂町

### 香川ブロック

香川県 三豊市  
高松市 土庄町  
丸亀市 小豆島町  
坂出市 直島町  
観音寺市 宇多津町  
さぬき市 多度津町  
東かがわ市

### 兵庫ブロック

兵庫県 相生市  
神戸市 加古川市  
姫路市 赤穂市  
尼崎市 高砂市  
明石市 南あわじ市  
西宮市 淡路市  
洲本市 たつの市  
芦屋市 播磨町

### 愛媛ブロック

愛媛県 伊予市  
松山市 四国中央市  
今治市 西予市  
宇和島市 上島町  
八幡浜市 松前町  
新居浜市 伊方町  
西条市 愛南町  
大洲市 由良町

### 和歌山ブロック

和歌山県 湯浅町  
和歌山市 広川町  
海南市 日高町  
有田市 由良町

### 岡山ブロック (山口・福岡・大分)

岡山県 笠岡市  
岡山市 備前市  
倉敷市 瀬戸内市  
玉野市 浅口市

山口県 福岡県  
下関市 北九州市  
宇部市 荘原町  
山口市 大分県  
防府市 大分市  
岩国市 別府市  
光市 佐伯市  
柳井市 中津市  
周南市 真杵市  
竹原市 山陽小野田市  
三原市 津久見市  
尾道市 周防大島町  
福山市 海田町  
大崎上島町

### 広島ブロック

広島県 大竹市  
広島市 東広島市  
呉市 廿日市市  
竹原市 江田島市  
三原市 海田町  
尾道市 坂町  
福山市 大崎上島町

### 国会員

近畿地方整備局 九州地方整備局 中国運輸局  
中国地方整備局 近畿運輸局 四国運輸局  
四国地方整備局 神戸運輸監理部 九州運輸局

## 航路情報提供Webサイト 「みなとナビせとうち」

<http://www2.uminet.jp/top/>



QRコードで携帯から簡単アクセス  
<http://www2.uminet.jp/k/navi.jsp?cd=i>

### みなとナビ広島

<http://www2.uminet.jp/>

「みなとナビ Hiroshima」は広島港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用する方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

### みなとナビ三原・尾道

<http://www2.uminet.jp/mihara/>

「みなとナビ 三原・尾道」は三原港および尾道港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用する方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

### みなとナビ高松・宇野

<http://www2.uminet.jp/takamatsu/>

「みなとナビ 高松・宇野」は高松港および宇野港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用す る方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

## 協議会Webサイト「海の路」

<http://www.uminet.jp/>



海の路  
Vol.25

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

発行/瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会事務局

協議会Webサイト「海の路」<http://www.uminet.jp/>

みなとナビせとうち <http://www2.uminet.jp/top/>

# 卷頭言



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 会長  
いり やま こう ろう  
大竹市長 入山 欣郎

## 歴代会長

平成3年～平成6年 姫路市長 戸谷 松司
平成7年～平成10年 坂出市長 松浦 稔明
平成11年～平成14年 小松島市長 西川 政善
平成15年～平成17年 玉野市長 山根 敬則
平成17年～平成18年 玉野市長 黒田 晋
平成19年～平成20年 下関市長 江島 潔
平成20年 下関市長 中尾 友昭
平成21年～ 大竹市長 入山 欣郎

## 寄稿

会員の皆様におかれましては、平素より瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会活動にご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年6月、大分県別府市にて開催いたしました瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会平成24年度総会には、会員である22市町村長をはじめ、近畿・中国・四国・九州の瀬戸内沿岸各地域から、多くの担当者の皆様にご参加をいただき誠にありがとうございました。

第1部の総会では、平成23年度の事業・収支決算報告、平成24年度の事業計画・予算案、新たに設置された防災委員会と協定運営協議会との情報交換や締結会員との調整情報交換等を行っていくことなどが決議されました。

第2部の第6回瀬戸内海首長サミットでは、第5回瀬戸内海首長サミット共同宣言を受け締結された「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」をテーマとして、平時の利用振興や災害時の支援内容を実現するための協力体制等について、活発な議論が行われました。

## 「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」締結式報告

## 平成24年度 総会報告

平成24年6月1日 大分県別府市

## 平成24年度総会



写真左より、  
高石市長 阪口 伸六  
光市長 市川 熙  
下関市長 中尾 友昭  
八幡浜市長 大城 一郎  
岬町長 田代 喬  
竹原市長 小坂 政司  
大竹市長 入山 欣郎  
宇部市長 久保田 后子  
防府市長 松浦 正人  
江田島市長 田中 達美  
山陽小野田市長 白井 博文  
玉野市長 黒田 晋  
姫島村長 藤本 昭夫



総会の様子

平成24年6月1日(金)、大分県別府市亀の井ホテルでの、総会開催にあわせて、瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定締結式を行いました。この協定は、平時は瀬戸内海の海の路を通じた地域振興や魅力発信により地域間の絆を深め、災害時には平時に構築された有機的な海の路のネットワークを活かして、相互に応援を行うことを目的としています。

締結式には平成24年3月29日に締結した28会員に加え、5月22日に締結した6会員を加えて計34会員のうち、13会員である市町村長が参加し、まず始めに協定運営協議会幹事市である入山欣郎 大竹市長より、「多くの会員がこれから参加を検討することで、さらなる協力体制の構築が期待でき、また本協定を通じて、海ネット会員の絆が更に深まることが期待している」との開会挨拶があり、出席者の紹介、締結状況の報告を行い、来賓の福田功 国土交通省大臣官房技術参事官より「重要な視点として早期の復旧・復興を果たすためには、海上輸送の特性を生かして、事前に災害時の相互補完のネットワークを確立している」との期待しているとの閉会挨拶をいただきました。

また、最後には11市1町1村の13首長による記念撮影を行いました。

写真左より、  
高石市長 阪口 伸六  
光市長 市川 熙  
下関市長 中尾 友昭  
八幡浜市長 大城 一郎  
岬町長 田代 喬  
竹原市長 小坂 政司  
大竹市長 入山 欣郎  
宇部市長 久保田 后子  
防府市長 松浦 正人  
江田島市長 田中 達美  
山陽小野田市長 白井 博文  
玉野市長 黒田 晋  
姫島村長 藤本 昭夫

平成24年6月1日(金)大分県別府市別府亀の井ホテルにて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会平成24年度総会を開催いたしました。総会には、近畿・中国・四国・九州地方から会員である22市町村長を含め、約120名もの担当者が参加して盛大に開催されました。

第1部の総会では、平成23年度の事業・収支決算報告と今年度の事業計画・収支予算案、要綱改正等について審議を行い、第2部の第6回瀬戸内海首長サミットにおいては、過去最多となる22市町村長に加えて、国土交通省大臣官房技術参事官、並びに各地方整備局副局長を交え、「瀬戸内・海の路の利用振興・防災ネットワーク機能の強化に向けて」をテーマとして議論を行いました。

開会にあたり、まず始めに協議会会長である入山欣郎 大竹市長より、「環境事業委員会など3つの実行委員会活動に加えて、本年度から防災委員会が新たに設置された事、また行政のみの活動だけではなく、民間事業者との連携による瀬戸内海全体の地域振興を図るために新たな取り組みとして昨年度から『海ネットサポート』、新たな取り組みが行われている事について、益々のご理解・ご協力をよろしくお願ひしたい」とのご挨拶をいただきました。

続いて、福田功 国土交通省大臣官房技術参事官より、「協議会を構成する地域は、海から眺めると、瀬戸内海を閉む二つの地域であり、歴史的に見ても共通の文化圏を形成してきたという見方ができ、当協議会は、20年間、海を生かした観光レクリエーションの振興、環境保全活動、防災に係わる取り組みなど、多様な活動を行いました。

行われてきたと承知している。防災に係わる新たな取り組みとして、「瀬戸内海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」が締結され、海を囲む沿岸地域がこそぞうて災害時に災害協定を締結するという新たな発想による興味深い取り組みがなされており、また本日

次に、来賓挨拶について、「瀬戸内海の豊かな資源を活用して、瀬戸内海地域の連携強化に向けた有意義な議論がなされることを期待している」との来賓挨拶をいただきました。

## 【第2部 第6回瀬戸内海首長サミットについて】

第一部分 義事二三事

卷之三

A photograph showing a large room filled with people seated in rows, facing towards the front. The room has white walls and a high ceiling. A banner hangs across the front of the room with text in Chinese characters.

魅力検討委員会  
年次会費についての見直しは行わず現状のままで、瀬戸内海の振興・発展協議会活動を推進していく上でも、各種支援事業について積極的な申請をお願いしたいと事務局より説明がありました。特に元委員会においては担当者から活発な意見や質問がなされ、大変有意義な担当者会となりました。

魅力検討委員会からは、「平清盛」ゆかりの地のPR、瀬戸内海の路利用振興事業及び海ネットサポート提案事業の実施並びにビデオデータ情報の更新作業について報告がありました。具体的には、昨年度「平清盛」連携推進会議と協働して発行した「せとうち清盛マップ」をベースに今回新たに会員から寄せられたゆかりの地情報を

含めて収集整理し、情報発信委員会へデータ提供したことや、瀬戸内・海の路利用振興事業及び海ネットサポーター提案事業について今後の新たな観光ルートとしての定着化に向けての検討や発着港周辺の防災関連施設の現状調査などが行われたことについて報告がありました。ビジターパース情報の更新については、現在Webサイトに掲載されている既存情報では不足しているビジターパースの詳細な諸元等各会員を通じて、リーナ等の民間事業者などに対しても協力依頼を行ったことや、引き続き魅力あるビジターパース情報となるよう検討する必要があることも課題としてあげられました。平成25年度においても瀬戸内・海の路利用振興事業を継続し、積極的な支援を通じて事業の定着化を図ることを目標とし、今後とも取り組んでまいります。

翌2日は、国際温泉観光都市として発展してきた別府市の中でも、住民参加型事業として市民と行政が連携して整備計画の検討を行い、面的防護方式により整備を実施し、(財)全日本建設技術協会「全建賞」を受賞した「餅ヶ浜海浜公園」の視察を行いました。また、鎌倉時代より湯治場として栄え、観光地の一つとなっている鉄輪温泉地区を視察しました。鉄輪地区は過去多くの観光客が訪れていましたが、交通事情の変化、住民の高齢化、地区の魅力低下などにより観光客が一時期減少し、地区的活性化が喫緊の課題となっていましたため、地域住民の発意による「鉄輪温泉地区まちづくり交付金事業受入協議会」において、事業の計画から工事の完成まで、数多くの話し合いを繰り返し行い、官民協働によるまちづくりにより、道路の美化(石畳)、温泉施設の建替え、まちおこしセンターの新築、街灯や情報版などの整備が行われました。

換等を行つていく事、平成25年度総会を兵庫県姫路市で開催することなど各議案が決議されました。

卷之三

100

引き続き第2部分科会では、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会に加えて、今回、新たに設置された防災委員会とあわせて4つの実行委員会に分かれ、議論が行われました。

第3部の全体会では、各実行委員会での議論の内容報告、及び平成25年度の活動内容等の方向性が提示されました。また、協議会会費についての質問があり、来年度の会費について見直しは行わず現状のままで、瀬戸内地域の振興・発展協議会活動を推進していく上でも、各種支援事業について積極的な申請をお願いしたい、と事務局より説明がありました。

特に実行委員会においては担当者から活発な意見や質問がなされ、大変有意義な担当者会となりました。

魅力検討委員会からは、「平清盛」ゆかりの地のPR、瀬戸内海の路利用振興事業及び海ネットサポートー提案事業の実施、並びにビジターパース情報の更新作業について報告がありました。具体的には、昨年度「平清盛」連携推進会議と協働して発行した「せとうち清盛マップ」をベースに今回新たに会員から寄せられたゆかりの地情報を

翌日の10月17日(水)は、徳島小松島港本港地区にある「みんなと交流センター k-o-c-o-1-o」等の小松島みなどオアシス関連施設の視察を行いました。

NPO法人の職員の方より、フェリー航路廃止後から、交流センターとして有効活用されるに至った経緯等の紹介がありました。また、徳島小松島港万代中央地区には、賑わい空間創出実験の環である体験ルーブを催行し、徳島県職員よりその取り組みの紹介や、水の都を発見等に関しての今後の課題等の説明を受け、新たな魅力発見等についてのアンケート調査を参加会員に対して行いました。

## 環境事業委員会活動

### リフレッシュ瀬戸内 全体拠点地レポート

大阪府岸和田市

平成24年6月1日～8月31日の間、「受け継ごう、きれいに豊かな瀬戸の海」を合い言葉に「リフレッシュ瀬戸内」を開催しました。今年度は瀬戸内海沿岸各地309箇所での開催となり、48,667人のボランティアの方々が参加し、407.8tのゴミを回収しました。また、今年度は「リフレッシュ瀬戸内」を開始してから20回目という節目を迎えた。実施市町村80、首長参加市町村14）を促すことで一層のPRを行いました。（実施市町村80、首長参加市町村14）全体拠点地となつた大阪府岸和田市地蔵浜町の「浜工業公園」阪南1区では、実施日の6月24日（日）にボランティアの方々701人が参加し、約1.6tのゴミを回収しました。また、市HP、広報誌及び各種団体へ開催案内・協力依頼によりPRを行い広くボランティアの参加を呼びかけました。地元ケーブルテレビが取材に来ており、「リフレッシュ瀬戸内」の活動状況がニュースに取り上げられました。

参加者からは「ゴミの量・種類を知る良い機会となった。」「継続して実施していく事が大事。」などの声が寄せられ、清掃活動の重要性が確認されたのではないかと感じております。

今後も、豊かな自然を受け継いでゆくため、この活動を継続していくかと考えております。

### リフレッシュ瀬戸内 ブロック拠点地レポート



7月15日(日)、寄島町青佐海岸において200人が参加し、2.0tのゴミを回収しました。



6月24日(日)、須磨海岸において76人が参加し、3.0tのゴミを回収しました。



開催予定日が雨により中止となり、翌日の6月17日(日)に大阪南港野鳥園において開催されました。延期となった影響か例年よりも少なく40人の参加者数で0.6tのゴミを回収しました。  
参加者からは「あまりゴミは多くなかったが大阪湾のゴミが少しでも減ってよかった。」「ビニール等のゴミが草にからまって取りにくかった。」「発泡スチロールのゴミが以外と多かった。」などの意見が寄せられました。



7月1日(日)、鷲浦町須波、長浜海岸において300人が参加し、2.4tのゴミを回収しました。  
参加者からは「ゴミがないように綺麗にしてほしい。」「子ども達や孫のために皆で自然の海をいつまでも綺麗に守っていかないといけない。」「できるだけ掃除をして綺麗な海岸を保っていきたい。」などの声が寄せられました。



7月1日(日)、父母ヶ浜海岸において192人が参加し、1.6tのゴミを回収しました。  
参加者からは「昨年参加して、よかったです子どもをつれてボランティアに参加しました。」「海開きです。掃除をしてきれいになったこの海岸に来てもらいたいです。美しい海岸を守ってきたいと思いました。」「砂浜に自生する植物は近年姿を消しつつある。ぜひ守っていきたい。」「ゴミを集めて感じたのは河川からの生活ゴミが目立つことだった。モラルを高めて意識を変えなければと思う。」「遊びに来た方がゴミを置いて帰ったりしないで、持ち帰ってほしい。」などの声が寄せられました。



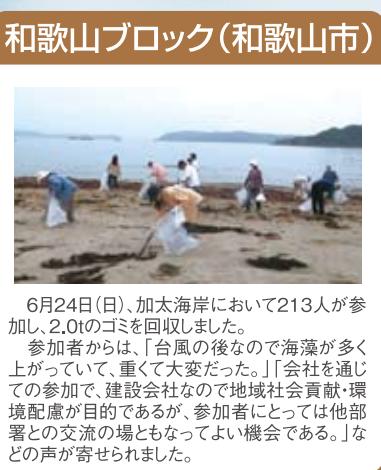
6月20日(水)、富海海岸において553人が参加し、1.9tのゴミを回収しました。  
参加者からは「とても暑かったですが、海岸が綺麗になって、清潔い気持ちになりました。これからも、続けていきたいと思います。」「海岸の石を集めて、掘られた穴に入れる作業をしました。石をそのままにしているとカキが付いて危険そうです。大変だったけど、安心して泳げる海になって良かったと思いました。」「地域外から多くの応援をいただき、クリーン作戦が続けてこられたことを地域の住民として感謝しています。「受け継ごう、きれいに豊かな海」を合言葉として、今後もこの活動を続けていきたいと考えています。」などの声が寄せられました。



7月15日(日)、新川海岸・北山崎海岸等において1,176人が参加し、13.0tのゴミを回収しました。  
参加者からは「普段からこの海岸は、地元老人会の方がボランティア清掃してくれているのでごみも少ないです。今日は、たくさんの方が参加して、ごみを一生懸命拾って、海岸がきれいにならいました」などの声が寄せられました。



7月2日(月)、横須・金磯海岸において1,200人が参加し、4.0tのゴミを回収しました。  
参加者からは「早朝から大勢の人方が参加しており、そのせいか拾えたゴミは少なかったように感じたが、清掃後の海岸はとてもきれいになっており、気持ちが良かった。」「今回たくさんの人が清掃に参加し、海岸はきれいになったが、またゴミが捨てられたり流れてしまつするのではないかと思う。今回の経験を通して、きれいな海の環境を守るために一人一人が気をつけるようになってくれたらと感じている。」などの声が寄せられました。



6月24日(日)、加太海岸において213人が参加し、2.0tのゴミを回収しました。  
参加者からは、「台風の後なので海藻が多く上がっていて、重くて大変だった。」「会社を通じての参加で、建設会社などで地域社会貢献・環境配慮が目的であるが、参加者にとっては他部署との交流の場ともなってよい機会である。」などの声が寄せられました。



回収されたゴミ



大阪府岸和田市地蔵浜町「浜工業公園」

#### 平成24年度リフレッシュ瀬戸内実施結果

府 県	ブロック拠点	実施箇所数	参加人数(人)	ゴミ収集量(t)	府 県	ブロック拠点	実施箇所数	参加人数(人)	ゴミ収集量(t)	
大阪府	大阪市	8	1,416	8.90	徳島県	小松島市	10	3,225	13.05	
兵庫県	神戸市	24	4,253	33.88	愛媛県	伊予市	78	5,357	79.79	
和歌山県	和歌山市	13	1,124	18.50	周防灘 (山口県)		29	11,327	57.28	
岡山県	浅口市	11	3,345	17.59	防府市		14	2,786	40.71	
広島県	三原市	31	5,929	53.40	(福岡県・大分県)					
香川県	三豊市	91	9,905	84.70	合 計		—	309	48,667	407.80

# 実施しました

環境事業委員会では、「ゴミを捨てない」「ゴミを捨てさせない」といったゴ

ミ排出抑制につながる予防的な取り組みを推進させるために、平成14年度から瀬戸内海沿岸地域の美化活動「リフレッシュ瀬戸内」と連携して、国際ビーチクリーンアップキャンペー

ンで実施されている手法を取り入れた「海の健康診断調査」(ゴミの組成調査)を実施しています。

平成24年度は全ブロック中11箇所において調査を実施しました(伊予市は同一市内で実施のため、1箇所として整理)。なお、実施箇所及び実施結果につきましては以下のとおりです。

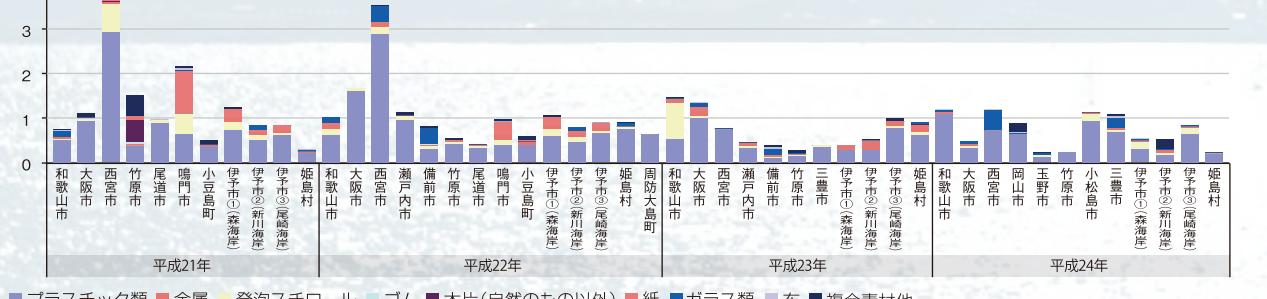
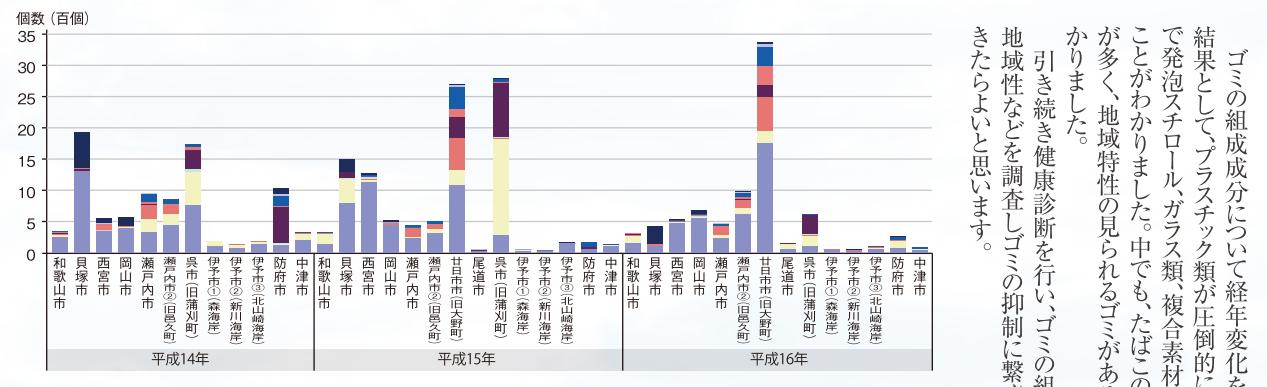
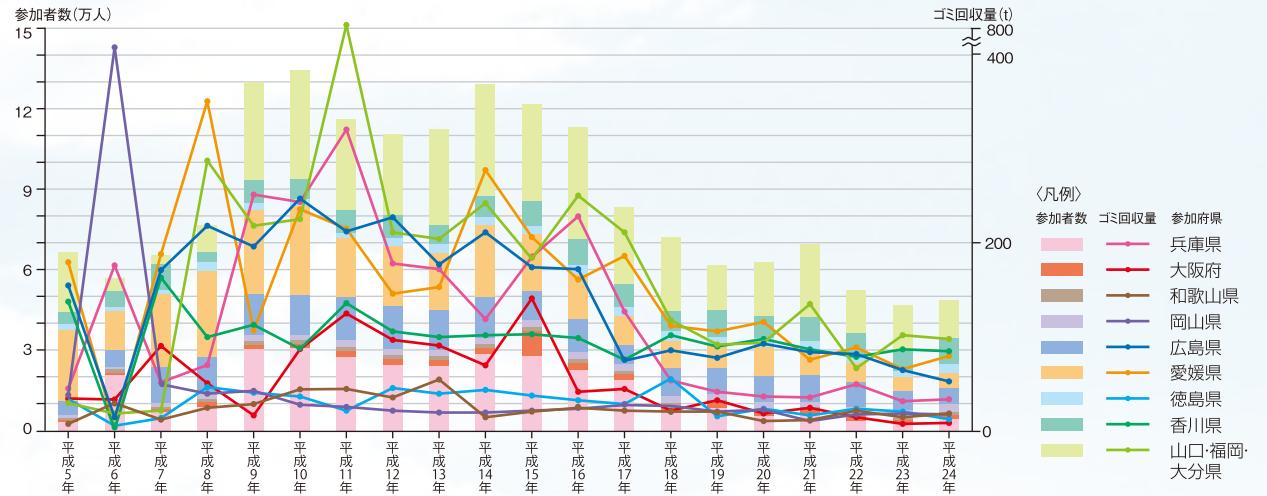
素材別に見ますとプラスチック類と発泡スチロール類が全体的に多いという過去と同様の結果が得られました。(プラスチック率77.3%)

この間の継続的な調査により、ゴミの地域特性が明らかになってきており、瀬戸内に住む人々のゴミに対する意識向上に役立てていきたいと考えております。

今後も調査を継続していくことによつて、瀬戸内全体で共通するゴミ、各地域の特徴的なゴミを情報発信し、ゴミ排出抑制への啓発活動に役立て、美しい瀬戸内海を次の世代に継承していく取り組みに繋げていきます。

## リフレッシュ瀬戸内データの有効活用

	上段:市町村名 下段:人数(人)				
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1位	光市 10,014	光市 10,031	光市 8,000	光市 9,936	光市 6,768
2位	海田町 4,132	佐伯市 9,700	海田町 3,404	鶴音寺市 2,399	東かがわ市 2,670
3位	松前町 2,765	海田町 3,661	鶴音寺市 2,591	東かがわ市 2,275	鶴音寺市 2,417
4位	鶴音寺市 2,715	鶴音寺市 2,671	東かがわ市 2,130	別府市 2,044	別府市 2,122
5位	別府市 2,473	別府市 2,265	別府市 2,030	今治市 1,637	芦屋市 1,953

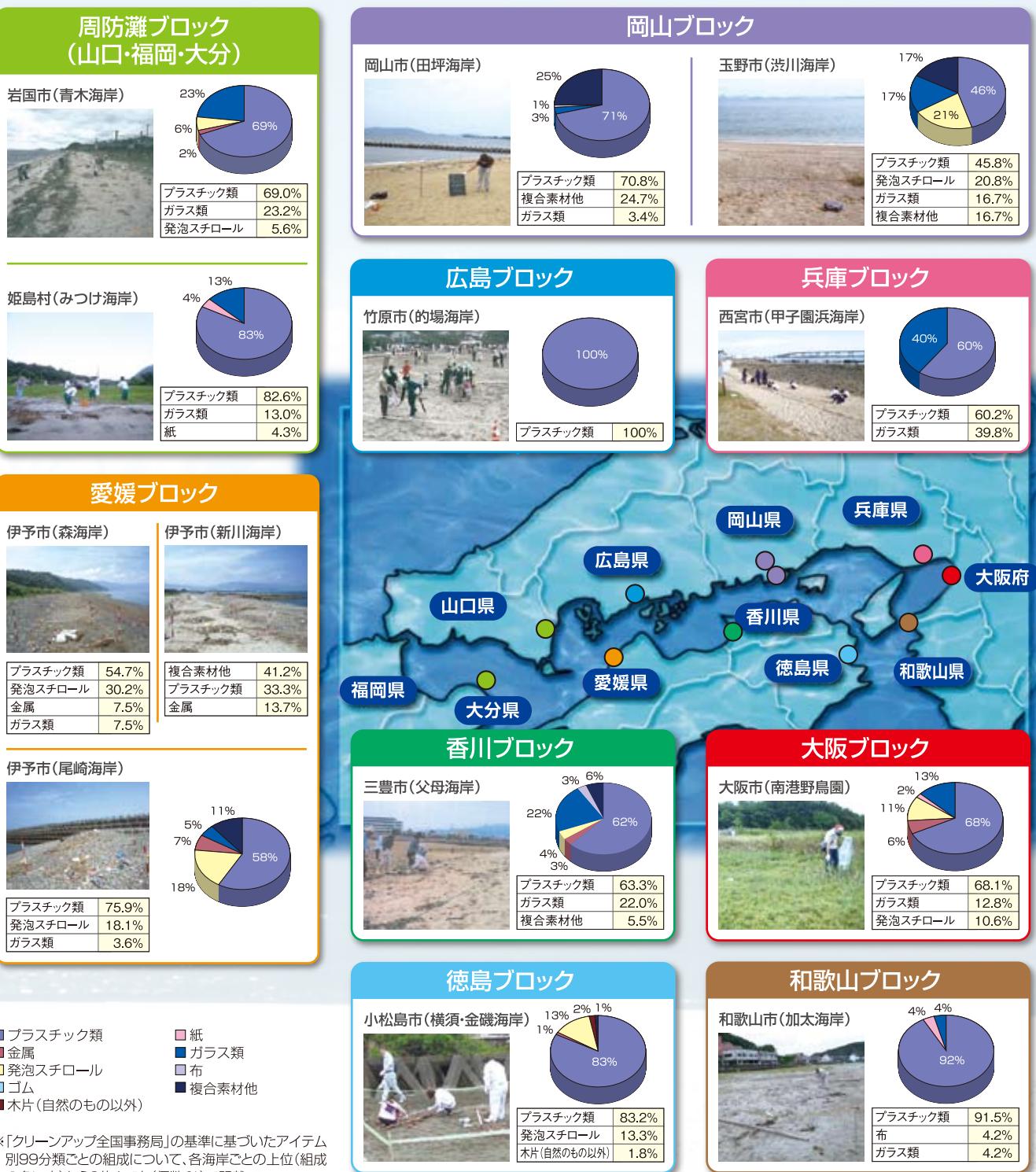


■プラスチック類 ■金属 ■発泡スチロール ■ゴム ■木片(自然のもの以外) ■紙 ■ガラス類 ■布 ■複合素材他

ゴミの組成成分について経年変化を調査した結果として、プラスチック類が圧倒的に多く、次いで発泡スチロール、ガラス類、複合素材の順に多いことがわかりました。中でもたばこのフィルターが多く、地域特性の見られるゴミがあることもわかりました。引き続き健康診断を行い、ゴミの組成成分と地域性などを調査しゴミの抑制に繋ぐことができたらよいと思います。

## 海の健康診断データの有効活用

ゴミの組成成分について経年変化を調査した結果として、プラスチック類が圧倒的に多く、次いで発泡スチロール、ガラス類、複合素材の順に多いことがわかりました。中でもたばこのフィルターが多く、地域特性の見られるゴミがあることもわかりました。引き続き健康診断を行い、ゴミの組成成分と地域性などを調査しゴミの抑制に繋ぐことができたらよいと思います。



\*「クリーンアップ全国事務局」の基準に基づいたアイテム別99分類ごとの組成について、各海岸ごとの上位(組成の多い方)から3位までを(個数%)で記載。

■プラスチック類 ■金属 ■発泡スチロール ■ゴム ■木片(自然のもの

# 魅力検討委員会活動

## 「平清盛」ゆかりの地のPRを通じた瀬戸内海の魅力発信（せとうち清盛マップ）

平成23年度において、「平清盛」瀬戸内連携推進会議（近畿運輸局・神戸運輸監理部・中国運輸局・四国運輸局・九州運輸局）と連携して作成した「せとうち清盛マップ」をベースに、平成24年度は、清盛ゆかりの地をWebサイト『海の路』において分かりやすく紹介する新たなコンテンツを作成しました。

具体的には、「せとうち清盛マップ」に掲載されている60施設に新たに25施設を加えて、全85施設のゆかりの地情報、写真及びURLをWeb上に掲載しています。  
NHK大河ドラマの「平清盛」の放映を契機として、一過性のブームに終わらせることがなく、今後もゆかりの地を巡る新たな観光ルートの開発など、瀬戸内海の海の路を通じた地域振興に役立たれるよう、今後も同マップを有効活用し魅力発信を図っていきたいと考えています。



せとうち清盛マップ(Web版)画面事例

## マリーナ・ビジターバース情報の更新作業を行いました（協議会Webサイト『海の路』への掲載）

防災ネットワーク機能の強化を視野に入れたプレジャーボートのクルーズ利用振興のため、瀬戸内海のマリーナ・ビジターバース情報を元的に提供するシステムを構築しました。今回、既存情報（平成21年度調査）では不足していたビジターバースの詳細な諸元や、係留隻数、入港にあたつてのコメント等を新たな項目として追加し、掲載情報が利用者にとってより有益で魅力あるものとなるように改良を行いました。

この改良によって初めての利用者でも必要な情報を容易に得ることができます。また、西日本の海の駅にもPRチラシを設置し、本情報は、当協議会に掲載されており、また、西日本の海の駅にでもPRチラシを設置しております。



PRチラシ

## 海ネットサポート提案事業及び瀬戸内・海の路利用振興事業を実施しました

平成23年度の魅力検討委員会活動として実施した「川と瀬戸内海の島々つなぐ体験クルーズモニターツアーア」では、海ネットサポートと連携して実施するなど、官民連携による地域振興に向けての取り組みを開始したところですが、平成24年度においては、海ネットサポートにより事業の提案募集を受け付け、更なる官民連携による地域振興を深化させるとともに、防災ネットワーク機能の強化のため、瀬戸内・海の路のネットワークを活かしたモニターツアーアの実施により、「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」の実効性を確認する事業に対して、支援を行いました。

特に、モニターツアーアは、平時から瀬戸内海の海の路を通じた交流・連携を図りつつ、新しい観光ルートの開拓だけでなく、防災の視点から、寄港地の係留施設や背後地スペース、避難場所及び港周辺の防災機能について調査を行いました。

今後、これらの調査結果を蓄積していくことで、災害発生時に「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」を通じて相互応援を円滑に行うための方策の検討に活用する等、非常に有用な情報となることが期待されます。



瀬戸内海クルーズの様子



瀬戸内みなとオアシス連絡会議の様子

実施事業名：瀬戸内海クルーズ 男木島de地引き網とバーベキュー  
実施主体名：公益財団法人高松觀光コンベンションビューロー（高松市）  
実施時期：平成24年8月18日（土）、19日（日）  
実施内容：フェリー直行便が未就航の高松港から男木港までを予備船を活用して遊覧し、瀬戸内の多島美を楽しんでいたくとともに、男木島では地元の協力を得て、バーベキューの実施、瀬戸内国際芸術祭2010の継続作品の鑑賞を行うなど、男木島の魅力を堪能頂きました。また、船内では防災視点を絡めたアンケートを実施し、当協議会の取り組みについて広く知っていました。

実施事業名：「瀬戸内みなとオアシス連絡会議」の開催  
実施主体名：NPO法人神戸グランドアンカー（神戸市）  
実施時期：平成24年11月17日（土）  
実施内容：瀬戸内海各港からの観光客受け入れ体制の充実と並行して、各港への観光客送り込みの積極性を持ち、双方向性を備えた相互協力を前提に、平成25年度事業としての集約実証事業に向けた連携会議を開催しました。

参加者数：主に瀬戸内海沿岸のみなとオアシス9団体他、関係行政機関

## 瀬戸内海の路利用振興事業

実施事業名：歴史&産業遺産「瀬戸内海古跡探訪クルーズ」

実施主体名：瀬戸内海クルーズ（株）（広島県）

実施時期：平成24年10月6日（土）、28日（日）、11月3日（土）、13日（火）

実施内容：宮島口・広島港・呉港等を発着地に、予備船を活用して、定期航路のない愛媛県の小島港・大島・下田水港等へ寄港するとともに、通常一般の人は行くことのできない、四

阪島の産業遺産を巡る旅として、瀬戸内海のおさんぽクルーズを参加者に楽しんでいただきました。各島々の産業遺産を専門ガイドによる案内で散策していただくことで、瀬戸内の古跡を紹介しました。また船内では防災視点を絡めたアンケートを実施し、当協議会の取り組みについて広く知っていました。

参加者数  
11月3日（土） 6342名  
10月6日（土） 62名  
13月28日（日） 1328名  
13日（火） 3160名  
31名



芸予要塞の島・小島を散策



クルーズルート図



仮装クルーズの様子



参加者数  
80名（大人60名、子ども20名）

実施事業名：仮装クルージング  
実施主体名：瀬戸内クルージング（尾道市）  
実施時期：平成24年11月18日（日）

実施内容：尾道市において開催された第1回全国仮装大会（西御所県営上屋2号内）に併せて、近隣の尾道駅前桟橋から約40分程度のクルージングを実施しました。クルージングでは、船長や船員が仮装し使用する船舶を装飾するなど、雰囲気づくりを行うとともに趣向を凝らしました。尾道水道を東西へ航行する定期旅客船がなければ、海側から紅葉を楽しみながら、観光地を望むため、いつもと違う尾道を感じていただきました。また、ツアーアー参加者に、防災の視点を絡めたアンケートを実施し、当協議会の取り組みについて広く知っていました。

## 情報発信委員会活動

### Webサイトのコンテンツ強化に向けての取り組みを行いました

情報発信委員会では、平成23年度に魅力検討委員会で取り組んだ「せとうち清盛マップ」の情報をWebサイト上で閲覧できるように改良を行い、マリーナ・ビジターバース情報については利便性の向上を図るためにWebサイトのリニューアルを行いました。

また、掲載内容の更新やメールでのWebサイトの情報更新の協力依頼を行い、イベントニュース等の最新情報掲載を促すとともに、海ネットの活動を広く一般の方にPRするため、簡易チラシの作成や食のブログリレーの実施などを行いました。

**マリーナ・ビジターバース情報の大規模リニューアル!!**

掲載された126箇所のうち、71のマリーナの協力を得て情報の統一化と一元的提供を行い、利便性が大幅に向上了しました!!

マリーナ・ビジターバース情報

**せとうち清盛マップのWebサイトでの公開!!**

会員市町村から寄せられた清盛ゆかりの地情報 85箇所を掲載中!!

クリック

**瀬戸内の情報がいっぱい  
瀬戸内イベントニュース**

**海の路Webサイトアドレス**  
<http://www.uminet.jp/>

# 防災委員会活動

## 第1回目となる防災委員会を開催しました

「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」第8条2項「協定運営協議会の設置」を踏まえた「協定運営協議会」設置（平成24年度幹事…大竹市、副幹事…高松市）に伴い、平成24年度実行委員会において防災委員会を新設しました。第1回防災委員会については、小松島市における担当者会において「協定運営協議会」との同時開催とし、防災に関する動向についての情報提供や締結会員との情報交換、本委員会の今後の活動内容等について検討を行いました。

「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」第2条（応援の種類）に関する協定締結会員等による情報伝達訓練や基礎的防災訓練（机上訓練）を実施することや、本委員会活動として新たな支援事業を創設すともにリスト化し、「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」第11条（通信体制の整備）に関しては、災害時における各締結会員担当者の連絡先についてリスト化を行いました。

また、協定の実効性に係わる今後の活動について協定締結会員等による情報伝達訓練や基礎的防災訓練（机上訓練）を実施することや、本委員会活動として新たな支援事業を創設することについて提案を行いました。

### 「防災委員会」と「協定運営協議会」について、分科会において合同開催

#### 実行委員会

##### 海ネット協議会要綱 第22条の2

実行委員会は協議会の実施機関として各種活動を実施するため幹事会が設置する。

##### 委員会構成：府県会員、市町村会員で構成

##### 情報発信委員会

事務局：  
九州地整 港湾物流企画室

##### 魅力検討委員会

事務局：  
四国地整 港湾物流企画室

##### 環境事業委員会

事務局：  
近畿地整 港湾計画課

##### 防災委員会

事務局：  
中国地整 海洋環境・技術課  
海ネット協定締結会員（共助会員）にて構成

#### 協定運営協議会

##### H24 協定運営協議会構成会員

福山市、瀬戸内市、  
高松市、三豊市、新居浜市



平成24年10月9日、約100名の関係者の参加により、「中四国瀬戸内クルージングサミット」が福山市の主催で開催されました。本サミットは、瀬戸内海に面する中国・四国の5市が船を使った交流を促進するもので、第1回目の三豊市、第2回目の新居浜市に続いて今回は3回目の開催です。当日は基調講演や5市長による公開サミット、体験クルージングが行われ、サミットにおいては「瀬戸内海に新たな観光ルートを作り、地域経済の活性化を目指す」とする共同宣言を探討しました。

兵庫県、姫路市



平成24年7月16日（海の日）、姫路港において市民参加型の「姫路港ふれあいフェスティバル」が開催されました。イベントでは、市民の港や海への親しみを醸成し、港湾整備への理解とクルーズ利用の促進を図り、また港の活性化へと繋げるため、防災関係ブースにおいては、海上保安部や海上自衛隊、NPOとの連携による東日本大震災復興支援活動の放映やパネル展示説明を実施し、また親子クルーズにおいては、平時の観光振興、災害時の相互支援等を視野に入れた姫路港・島根港のクルーズアンケート調査を実施しました。

#### ネットワーク活動

## 先導的活動支援報告

協議会では、瀬戸内地域の交流・連携、地域振興など他の会員の模範となる先導的な活動として、複数の会員が連携して取り組む「ネットワーク活動」への支援を行いました。

岡山県、玉野市



インフォメーションセンター

平成25年3月20日より、芸術祭の会場である宇野港（岡山県玉野市）において、数々の国際性豊かなアート作品を展開しました。宇野港は直島・豊島などへ渡り、島・アートを巡つて瀬戸内海の四季を楽しむ人達の発着場・玄関口ともなるため、国際的認知度を高めるべく外国人観光客なども対応可能なインフォメーションセンターを設置するなども、芸術祭へ来訪する観光客等を宇野港において「おもてなし」するため、インフォメーションセンターについてもアート化する事でシンボル性を高めるなどの工夫を行いました。

神戸市、岡山県、玉野市、香川県、  
広島県、広島市、北九州市



国内外で関心が高まっている「瀬戸内クルーズ」をメインテーマに、船会社や旅行会社等を対象として、平成24年11月29日、西日本の各関係機関や沿岸諸港による広域連携を活用した「瀬戸内クルーズ・シンポジウム」が開催されました。シンポジウムでは、「瀬戸内クルーズの振興に向けて」と「瀬戸内クルーズにおける広域連携をテーマとしたセミナーを開催し、またクルーズの活性化につなげるため瀬戸内クルーズに出港する客船「つばほ丸」の出港セレモニーもあわせて華々しく行われました。

#### 防災委員会・協定運営協議会での取り組み内容

- 防災情報の共有、情報交換
- 海ネット協定の実効性に関する取り組み内容等（防災訓練の検討など）

# 瀬戸内海クルーズ推進活動支援報告

瀬戸内地域の観光交流を図るため、寄港地または寄港地周辺の会員が行つたクルーズ船寄港地歓迎イベントや、積極的な誘致活動について支援を行いました。

## クルーズ船寄港地歓迎イベント

### クルーズ船誘致活動支援

**呉市**

中国新聞 創刊120周年・中国放送開局60周年・中国制110周年として企画された、客船ばかりでなく音楽隊の演奏や乗船客らを見送りました。

**兵庫県・姫路市**

姫路港としては約3年ぶりに外国客船が入港し、ハーベニアティック号歓迎行事として甲冑の武者姿でのお迎えや記念ブレードの贈呈を行いました。夕方からは審美二コソサトを実施し、出港まで見送りました。

**佐伯市**

例年8月13日には門海峡花火大会を開催しており、この花火大会を観覧するため、多くのクルーズ客船(「ほん丸」、「横浜クルーズ」として)が下関へ寄港しました。出港式では、「物販マーケット」や「船内音楽演奏」による見送りが行われました。

**下関市**

例年8月13日には門海峡花火大会を開催しており、この花火大会を観覧するため、多くのクルーズ客船(「ほん丸」、「横浜クルーズ」として)が下関へ寄港しました。出港式では、「物販マーケット」や「船内音楽演奏」による見送りが行われました。

**北九州市**

例年8月13日には門海峡花火大会を開催しており、この花火大会を観覧するため、多くのクルーズ客船(「ほん丸」、「横浜クルーズ」として)が下関へ寄港しました。出港式では、「物販マーケット」や「船内音楽演奏」による見送りが行われました。

**岡山県・玉野市**

例年8月13日には門海峡花火大会を開催しており、この花火大会を観覧するため、多くのクルーズ客船(「ほん丸」、「横浜クルーズ」として)が下関へ寄港しました。出港式では、「物販マーケット」や「船内音楽演奏」による見送りが行われました。

**広島県**

例年8月13日には門海峡花火大会を開催しており、この花火大会を観覧するため、多くのクルーズ客船(「ほん丸」、「横浜クルーズ」として)が下関へ寄港しました。出港式では、「物販マーケット」や「船内音楽演奏」による見送りが行われました。

**小豆島町**

例年8月13日には門海峡花火大会を開催しており、この花火大会を観覧するため、多くのクルーズ客船(「ほん丸」、「横浜クルーズ」として)が下関へ寄港しました。出港式では、「物販マーケット」や「船内音楽演奏」による見送りが行われました。

**岡山県・玉野市**

宇野港の港湾管理者・岡山県と、地元玉野市及び関係商工・観光団体・地元企業等で設立した宇野港航路誘致推進協議会」が協働して、港湾施設や観光地情報、寄港歓迎イベント等を記載した宇野港パンフレット(日本語・英語・中国語・韓国語を作成し、国内外のクルーズ船社や旅行代理店等へのポストセールスに活用するなど、積極的な誘致活動を行いました)。

## 後援活動報告

### 「豊かな瀬戸内の港く写真パネル展」 清盛魂が開花した

日 時：平成24年5月24日（木）～12月10日（月）  
場 所：神戸市・広島市・呉市・竹原市・福山市  
主 催：NPO法人神戸グランドアンカー  
瀬戸内の多くのみなとが連携・協働してみなど  
の振興と発展を目指して、大河ドラマ「平清盛」の放映とあわせて、瀬戸内の魅力や地域を清盛の足跡、工場紹介する写真展を開催いたしました。



写真展(神戸市)の様子

### 瀬戸内クルーズ推進セミナー

日 時：平成24年10月10日（水）  
場 所：中国運輸局海技試験場（広島市）  
主 催：（近畿運輸局）  
（九州運輸局）  
（四国運輸局）  
（瀬戸内連携推進会議）  
瀬戸内の多くのみなとが連携・協働してみなど  
の振興と発展を目指して、大河ドラマ「平清盛」の放映とあわせて、瀬戸内の魅力や地域を清盛の足跡、工場紹介する写真展を開催いたしました。



セミナーの様子

### 瀬戸内ブランド発掘フォーラム

日 時：平成24年10月30日（火）  
場 所：サンボートホール高松（高松市）  
主 催：瀬戸内ブランド推進協議会  
(兵庫県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県)  
フォーラムは「ブランド発掘宝船クルーズ」の一環で  
クルーズの途中において開催されたもので、約200人が参加し、瀬戸内の魅力について考えるとともに、瀬戸内をブランドとして国内外に発信するための方策などをについて討議が行われました。



フォーラムの様子

# 第6回 瀬戸内海首長サミット

「瀬戸内・海の路の利用振興・防災ネットワーク機能の強化に向けて」

平成24年6月1日 大分県別府市



下関市長  
中尾 友昭

当市は三方を海に囲まれており背後地が丘陵地であるため、災害があつた場合は船舶輸送が最優先される。総合的な治療が行える災害時多目的船(病院船)について国において検討をお願いしたい。また下関港は韓国等から支援物資受入が可能なため、その役割を検討していかたい。



山陽小野田市長  
白井 博文

災害はもっぱら海から来る。四国の中で大地震が発生し、津波が九州と四国の中を通り、瀬戸内海の山陽小野田市に来る場合にそれをどう防ぐか、それを防災計画の中で船舶輸送を受け入れる態勢の整備のために、どういう支援ができるかという事と、支援力の向上、それ位置付けをしておく事は非常に重要。



宇部市長  
久保田 后子

被災地では情報が錯綜するため、これを整理する司令塔機能が重要。大規模災害時に支援効果を十分發揮させるために、国土交通省地方整備局の関与が不可欠である。日頃から各種災害を想定して船舶の確保を行なうなど、強調な海の路を作らなければいけない。



防府市長

松浦 正人

光市には大きな港はないが、十数干戸に渡る自然海岸がある。緊急時には、自衛隊が所有する船を活用すれば、大量の物資を搬入することができる。また、島田川の河口には、2大企業の専用バースもあり、併せて、海の路の臨時駐車場として活用できることを知りたい。



光市長

市川 熙

当市には港に危険物が貯蔵できる施設があり、また良質なおいしい水を船舶へ供給する事ができる。各市が持つ特徴をそれぞれが持ち寄り、いざという時にどう役に立てるかを細かくお互いが知る事をやっていけば、いざという時に皆さんのお役に立つのではないかと思う。



大竹市長

入山 欣郎

東日本大震災で人員・物資の輸送及び被災者の搬送に陸路だけではなく海路が必要だということを痛感しており、災害における住民の安全確保のためにも陸路と海路の両ルートを確保していくことが必要。陸上自衛隊駐屯基地があるため、陸路に対する強力な支援ができる。



江田島市長

田中 達美

海ネット協定の内容が円滑に実施されるという観点で言えば、非常時のフェリーや旅客船の利活用として、平時に船舶が確保されている事が大前提であり、これがうまく機能するかしないかということに尽きるため、日常的に売船やドック入り等の情報を実態把握しておることが大事。



竹原市長

小坂 政司

協定の円滑な実施のために協定会員が連絡を密にして、訓練や情報の緊密な実施が必要ではないか。東日本大震災では様々な支援を行ったが、救援物資で何が足りていて何が不足しているのかという情報をITを使って情報開示していくなければならないと思っている。



浅口市長  
栗山 康彦

非常に遠浅で、大きいフェリーはもちろん通航できず、干潮時には漁船が出入りに困るような、港と言えないような地区が、瀬戸内海沿岸には他にも多くあるのではと思っている。災害は容赦なく来るため、一緒に知恵を出し合い、助けられたり助けたりできたら良いと思う。



国土交通省大臣官房技術参事官  
福田 功

東日本大震災が起きて、防災に対する国民の意識というのも相当変わってきた政策を再度洗い直して幅を広げて、内容をより深くしていく方向で、これからも充実をしていかたいと思っている。



中国地方整備局副局長  
安田 実

整備局として自治体としっかりと連携を取ることは最大限重要なことであるが、プロダクツ機関として、自衛隊や海上保安庁等の公的機関との連携も取り組んでいる。そういうネットワークとも連携しながら、いろいろお手伝いができるのではないかと思っている。



「瀬戸内海首長サミット」の様子



九州地方整備局副局長  
難波 喬司

実際に今後どのような「システム」や「仕組み」を作るかということが問われていると思うので、事務局としても、いろいろとご相談をさせていただき、次のサミットに向けて、しっかり頑張っていきたいと思っている。



刈田町長  
吉廣 啓子

当町には耐震強化岸壁が整備されているので、そこを拠点に海上からの支援、輸送をしていきたい。臨海部に立地している企業といざというときに船を貸していただくような協定を結んでいく等、工夫した取り組みが必要。また、北九州空港で直接、空から海への輸送也可能である。



中津市長  
新貝 正勝

当市にある中津港は非常に新しい港であるが、耐震構造となっており、フェリーやコンテナ船も着くことができない。よって今後、耐震性を高めていくようにお願いしたい。何かあれば当然協力していくので、各市町村の実情等について今後研究していきたい。



姫島村長  
藤本 昭夫

当村と対岸の国見町間をフェリーが1日12往復している。国、県のおかげで姫島港が整備されて大変感謝している。海ネット協定は大分県で唯一参加しており、協力できることは、村営のフェリーが2隻(1日交代)があるので、何かあった時は役に立つのではないかと考えている。



別府市長  
浜田 博

地域防災計画の輸送計画では、道路・鉄道の陸送、海上自衛隊や民間の船舶による海上輸送、防災ヘリ等の航空輸送による緊急輸送を計画している。特に港湾は、被災しなければ、民間わず大量輸送が可能であれば、官民連携で緊急輸送には十分期待をしている。



佐伯市長  
西嶋 泰義

東日本大震災で宮城県山元町と岩手県陸前高田市へ職員を派遣した。物資も運ばなければならぬが、人も災害復旧のために支援していくが、本当の目的は海の復権、島々の復権という事。芸術祭をやってよかった事として島々が、船で、海路でつながると、島々が元気を取り戻し、輝きを取り戻すという事だ。



八幡浜市長  
大城 一郎

平成25年3月から2回目の瀬戸内国際芸術祭が開かれる。芸術祭はアートの振興が一つの目的となっている。これまで防災マップ(津波の避難場所)の作成や、ジエイアラート(全国瞬時警報システム)の設置、隣町と防災協定を締結し水防訓練の実施や支援物資提供時の体制整備等を行っている。



小豆島町長  
塩田 幸雄

松茂町には内閣府の補助でつくった防災センターがあり、平成20年度から利用を開始している。陸上・海上自衛隊があるので輸送の支援は一番でできると思う。今後とも皆さんと一緒に取り組んで、素晴らしい海を守りながら災害に強い瀬戸内にしていきたいと思っている。



由良町長  
畠中 雅央

阪神淡路大震災で陸路が寸断された際、深日港から被災地に物資を送ったが、陸路の便利が良くなり現在は廃止の状況。深日港と四国・九州をつなぐ路を模索していたところ、今後お互いの地域の港を活用し、交流を深めながら、災害時に協調できるようにしていかたい。



岬町長  
田代 寿

阪神淡路大震災の際は陸路が寸断された際、深日港から被災地に物資を送ったが、陸路の便利が良くなり現在は廃止の状況。深日港と四国・九州をつなぐ路を模索していたところ、今後お互いの地域の港を活用し、交流を深めながら、災害時に協調できるようにしていかたい。